

上位計画・関連計画

■ 目指すべき都市像

北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち

札幌・北海道の様々な魅力資源を、一人一人の創造性によって、より磨き上げながら、それを国内及び世界に発信することで、世界との結び付きを強め、投資や人材を呼び込むなど、世界が憧れ、活力と躍動感にあふれる、心ときめくまちを実現します。

新たな価値を 生み出す創造と チャレンジ

先駆的な取組にチャレンジできる環境を整え、新たな価値が生み出されていくまち

札幌型 ライフスタイルの追及

世界が憧れる札幌型のライフスタイルを追求し、その魅力を発信

世界に誇る 環境首都の実現

世界に誇れる先進的な環境首都の実現

互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

誰もが生きがいと誇りを持ちながら、互いにつながり、支え合うことで、生きる喜びと幸せを感じられる、心豊かで笑顔になれるまちを実現します。

つながりと支え合い のまちづくり

互いの個性や多様性を認め合う寛容さと相互の信頼感の下でつながる共生のまち

道内市町村との 連携と魅力創造

道内の魅力資源と札幌の都市機能を融合させながら、他の都市や地域と手を携え、北海道の魅力をもっと高める。

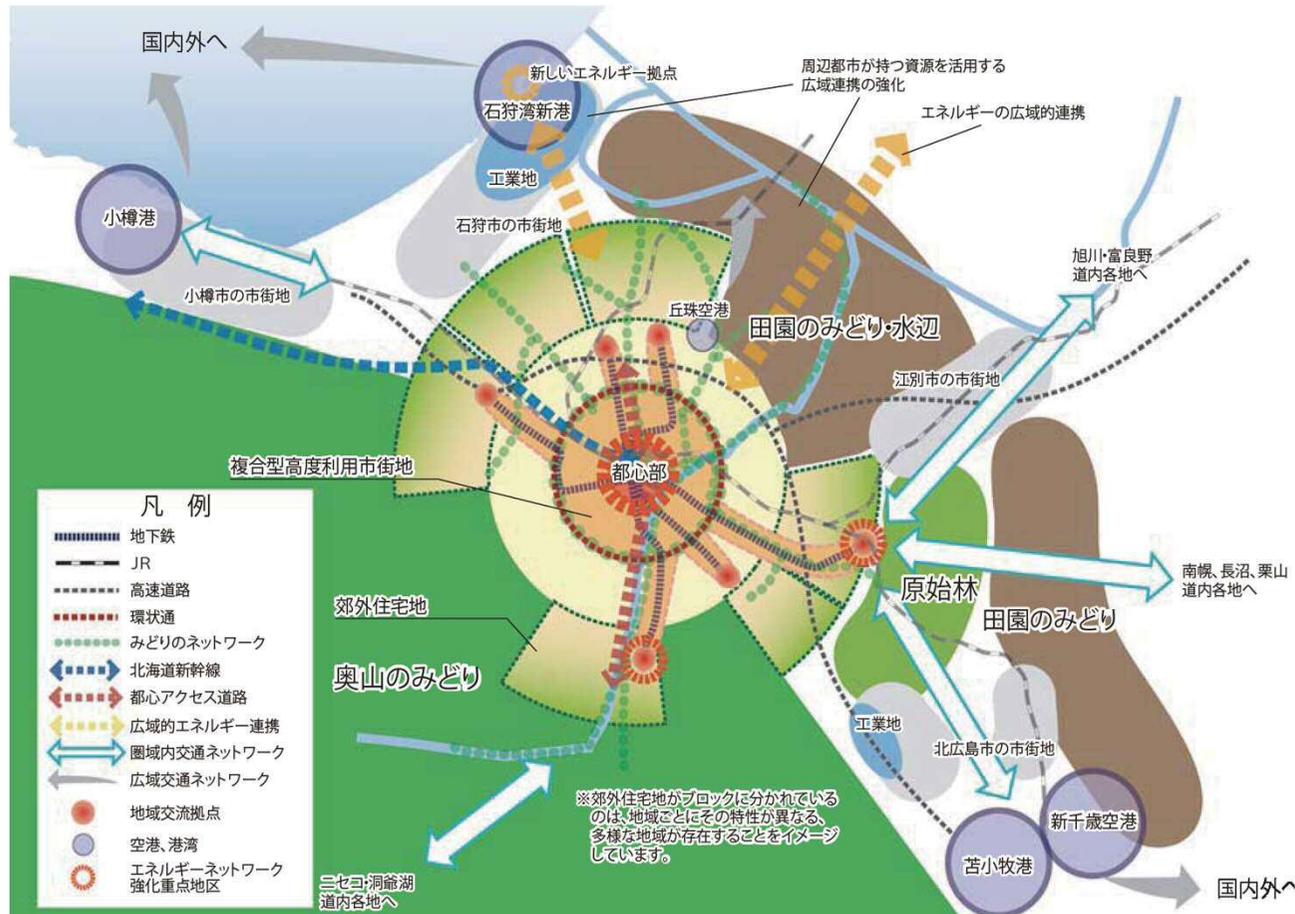
世界の中での 都市の共生

環境・エネルギーなどの地球規模の課題について、世界の都市の一員としての責任と役割を果たし世界と共生。

都市空間創造の基本目標

持続可能な札幌型の集約連携都市への再構築を進める

- 地下鉄駅周辺等に多様な都市機能を集約することで、効率的に都市サービスを楽しむことができるコンパクトな都市
- 良好な環境を備える郊外での暮らしを選択するなど、住まいの多様性が確保された札幌らしいライフスタイルが実現できる都市
- 公共交通を基軸としたまちづくりを推進するとともに、新たなエネルギーネットワークの構築などによる環境都市
- 都市の活力を創出するため、道内外と多様な交通ネットワークでつながる、北海道の中心都市
- 都市基盤が効率的に維持・保全され、災害に強い安全・安心な都市



■ 目指す都市空間と都市空間創造戦略

1 魅力ある市街地

(1) 複合型高度利用市街地

<p>目指す 都市空間</p>	<p>定義 おおむね環状通の内側と地下鉄の沿線、地域交流拠点に位置付けられているJR駅の周辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 居住機能と生活を支える多様な機能が複合した比較的高密度で質の高い市街地を目指します。
<p>都市空間 創造戦略</p>	<p>質の高い複合型の市街地形成を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 再開発などにより、複合型の住宅や生活利便性機能などの立地を促進します。 ● 景観に関する制度の見直しや札幌らしい景観まちづくりを推進します。

(2) 郊外住宅地

<p>目指す 都市空間</p>	<p>定義 札幌市住区整備基本計画などに基づき、低層住宅地を主として計画的に整備してきた地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 良好な環境が維持され、誰もが安心して暮らすことができる住宅地を目指します。
<p>都市空間 創造戦略</p>	<p>安心して暮らせる郊外住宅地を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活利便機能の立地への対応や地域特性に応じた取組を推進します。 ● 地域の足を確保する取組を推進します。

(3) 一般市街地

<p>目指す 都市空間</p>	<p>定義 複合型高度利用市街地と郊外住宅地以外の地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 居住者の利便や就労などを支える機能が立地する住宅地と、工業地・流通業務地などから構成される市街地を目指します。
<p>都市空間 創造戦略</p>	<p>一般市街地の生活の維持・保全を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 住宅地や産業団地など、地域特性に応じて土地利用計画制度を適切に運用します。

■ 目指す都市空間と都市空間創造戦略

2 活力があふれ世界を引きつける都心

<p>目指す 都市空間</p>	<p>定義 JR札幌駅北口の一帯、大通東と豊平川が接する付近、中島公園、大通公園の西側付近を頂点とする、ほぼひし形に広がる区域</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高次な都市機能が集積し、魅力ある空間が整うなど、市民生活の質の向上を支えるとともに、札幌を世界にアピールすることができる魅力的な都心を目指します。 ● 地上や地下の回遊性が向上し、交通環境が改善された、人にやさしい都心を目指します。 ● 先進的かつ積極的なエネルギー施策を展開する、環境首都・札幌を象徴する都心を目指します。
<p>都市空間 創造戦略</p>	<p>札幌の顔にふさわしい重点的なまちづくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都心のにぎわい・憩いの空間の創出や再開発を進めます。 ● 創成川以東地区のまちづくりを重点的に推進します。 <p>都心の回遊性の向上や交通環境の改善を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 路面電車のループ化（サイドリザベーション）や地下歩行空間の充実など、回遊性を高めます。 ● 自転車利用環境を改善する総合的な取組を推進します。 <p>先進的・積極的なエネルギー施策の展開を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エネルギーネットワークの強化・拡大などを推進します。

■ 目指す都市空間と都市空間創造戦略

3 多様な交流を支える交流拠点

(1) 地域交流拠点

目指す 都市空間	定義	交通結節点である主要な地下鉄・JR駅の周辺で、都市基盤の整備状況や機能集積の現況・動向などから、地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域のほか、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域
	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺地域の住民も利用する区役所などの公共施設や、商業・業務・医療などの都市機能の集約と、居住機能との複合した市街地を目指します。特に、地下鉄始発駅などでは、後背圏や近隣の魅力資源、空港・港湾などとの連携を意識した多様な機能の向上を促進することで、ゲートウェイ拠点にふさわしい市街地を目指します。 ● 駅周辺施設が空中歩廊や地下ネットワークにより駅に接続するなど、冬でも快適な歩行空間が整った市街地を目指します。 <p>地下鉄始発駅：新さっぽろ、宮の沢、麻生・新琴似、真駒内、栄町、福住 その他：大谷地、白石、琴似、北24条、平岸、澄川、光星、月寒、手稲、篠路、清田</p>	

都市空間 創造戦略	地下鉄駅周辺などの機能向上を促進します。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 再開発などによる都市機能の誘導や快適な歩行空間の創出などを促進します。 ● 区役所などの拠点への配置を実施・検討します。

(2) 高次機能交流拠点

目指す 都市空間	定義	産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次な都市機能が集積する拠点
	<ul style="list-style-type: none"> ● 札幌が持つ高次な都市機能をさらに高める取組により、魅力と活力あふれる都市を目指します。 <p>円山動物園周辺、藻岩山麓周辺、北海道大学周辺、苗穂、東雁来、モエレ沼公園・サッポロさとらんど周辺、大谷地流通業務団地、東札幌、札幌テクノパーク、札幌ドーム周辺、定山溪、芸術の森周辺</p>	

都市空間 創造戦略	都市機能を高める取組を推進します。
	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの拠点の性格を踏まえた都市機能の集積や高度化に向けた取組を推進します。

■ 目指す都市空間と都市空間創造戦略

4 持続可能な都市を支えるネットワーク

<交通ネットワーク>

目指す
都市空間

- 公共交通を中心とした交通ネットワークをさらに活用するとともに、骨格的な道路網の強化などにより、市民生活や経済・観光などを支える円滑な交通ネットワークの構築を目指します。

都市空間
創造戦略

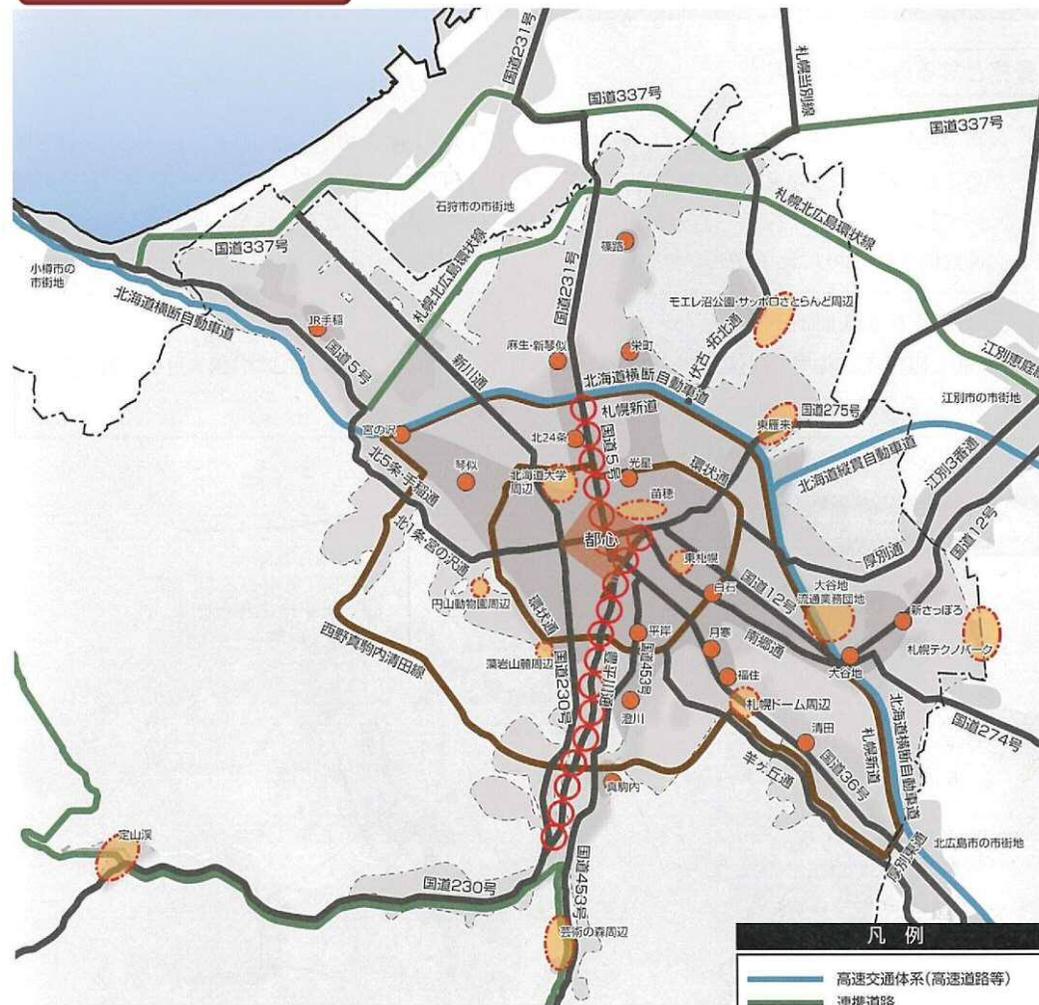
公共交通の利用促進を図ります。

- 地下鉄・JR駅などの交通結節点の利便性を高める整備を推進します。
- 路面電車に関する整備やバス等の利便性向上に向けた取組を推進します。

骨格道路網などを強化します。

- 広域連携の強化と市内交通の円滑化を進めます。

骨格道路網図



凡例

	高速交通体系(高速道路等)
	連絡道路
	環状道路
	放射道路
	都心アクセス強化道路軸
	都心
	地域交流拠点
	高次機能交流拠点

■ 目指す都市空間と都市空間創造戦略

5 都市基盤の維持・保全と防災力の強化

目指す
都市空間

- 都市基盤の効率的かつ計画的な維持・保全や機能の見直し・複合化、耐震化などが計画的に行われている、安全・安心な市民生活が実現する都市を目指します。

都市空間
創造戦略

都市基盤の効率的かつ計画的な維持・保全などを推進します。

- 都市基盤の維持・保全を進めます。
- 都市基盤の適切な再配置と活用を図ります。

災害に強い都市を構築します。

- 建築物の耐震化などを促進します。
- 災害に強い都市基盤の整備を推進します。

■ 重視すべき観点

○ 前計画の重視すべき観点

- ・成熟社会を支える都市づくり
- ・効率的な維持・管理が可能な都市づくり
- ・環境と共生する都市づくり
- ・地域コミュニティの活力を高める都市づくり

○ 今後重視すべき観点

○ 新たな価値を創造し、成熟社会を支える都市づくり

世界都市を目指し、札幌らしい都市空間の形成や食・観光をはじめとした産業の振興を進めるにあたっては、自然環境や地域資源などを活用し、札幌らしい良好な景観形成など新たな価値の創造により、都市の魅力・活力を向上する必要があります。

○ 持続的・効率的な維持・管理が可能な都市づくり

財政的な制約が厳しさを増す中で、人口減少社会の到来を見据えて、既存建物の機能向上や用途を変更することによる価値の向上など、既存の施設や都市基盤の活用・長寿命化を図り、持続的で効率的な維持管理を行うことができる都市づくりを進める必要があります。

○ 地域特性に応じたコミュニティの活力を高める北国らしい都市づくり

人口減少や少子高齢化が進む中でも、誰もが将来にわたり住み続けられる地域の実現のため、「さっぽろ未来創生プラン」も踏まえながら、積雪寒冷の特性を考慮した生活や交通利便性の確保、地域特性に合わせた多様な交流・活動の場の創出などにより、地域ごとの魅力を向上させることで、コミュニティの活力を高めていく必要があります。

○ エネルギー施策と連携し、環境と共生する低炭素型の都市づくり

地球温暖化対策や生物多様性の保全、エネルギー転換を推進するため、環境配慮型の建築物の普及やエネルギーネットワークの構築を進めるとともに、土地利用の高度化や移動距離の短縮などエネルギー効率の良い低炭素型の都市構造へ誘導する必要があります。

○ 災害等に備えた安全・安心な都市づくり

地震や風水害等への備えはもちろん、災害が起きても都市活動を継続でき、復旧を円滑に行うことができる、すべての人にとって安全・安心な都市の実現に向けて、「札幌市強靱化計画」も踏まえた都市づくりを進める必要があります。

■ 都市づくりの理念、基本目標

○ 理念

S・M・I・L・Es City Sapporo (スマイルズ・シティ・サッポロ)

～誰もが笑顔でいきいきとすごせるまちへ～

▶ S・M・I・L・Es とは

S	S ustainability	持続可能性 (持続可能な市街地、環境、経済政策、災害に強い市街地)
M	M anagement	マネジメント (市街地、都市基盤、交通、エネルギー)
I	I nnovation	創造性の発揮 (自然環境や地域資源などを活用した新たな価値)
L	L ivability	住み良いまち (多様なライフスタイルへの対応、交流)
Es	E veryone, E conomy,...	すべての人 (Everyone)、経済 (Economy)、活力 (Energy)、雇用 (Employment)、自然環境 (Ecology)、環境 (Environment)

○ 都市づくりの基本目標

【都市づくり全体】

高次な都市機能や活発な経済活動により、都市の魅力と活力を創出し、道内をはじめ国内外とつながり北海道をリードする**世界都市**

超高齢社会を見据え、地下鉄駅の周辺などに、居住機能と生活を支える多様な都市機能を集積することなどにより、円滑な移動や都市サービスを享受できる**コンパクトな都市**

自然と調和したゆとりある郊外での暮らしや、利便性の高い都心・地下鉄駅周辺などでの暮らしが選択できるなど、住まいの多様性が確保された**札幌らしいライフスタイルが実現できる都市**

公共交通を基軸としたまちづくりの推進や、新たなエネルギーネットワークの構築などによる**低炭素都市**

都市基盤が効率的に維持・保全され、都市活動が災害時にも継続できる**安全・安心な都市**

【身近な地域】

多様な協働による地域の取組が連鎖する都市

■ 交通に関する基本方針

【総合的な交通ネットワークの確立】

- ・公共交通ネットワークの効果的な運用により、拠点へのアクセス機能の向上、各交通機関の相互連携と質的充実を図ります。
- ・都心への不必要な自動車流入を極力抑制するとともに、周辺都市や市内の各地域の拠点へ容易に到達でき、それらの拠点相互が有機的に連結するように道路ネットワークを構成します。
- ・空港・港湾及びそれらへのアクセス、鉄道、高速道路などの機能を確保・充実するとともに、北海道新幹線の札幌開業を見据えた広域交通ネットワークの強化を図ります。

【地域特性に応じた交通体系の構築】

- ・市民・企業・行政等の共通認識のもと、歩きやすさなど歩行者の視点に配慮しつつ、自転車の利用環境改善等を進め、都心の回遊性の強化や人口減少・高齢化が進む地域の交通のあり方を検討します。

■ 交通に関する基本方針

【総合的な交通ネットワークの確立】

① 公共交通ネットワーク

- 大量公共交通機関を基軸に、後背圏からのバスネットワークを各駅に接続し、都心等へ向かう広範な交通を大量公共交通機関へ集中させます。
- 各拠点へのアクセス機能の向上など、都市づくりの「基本目標」を支える観点から、地下鉄など軌道系交通機関をはじめとした公共交通ネットワークの活用を図ります。
- 各交通機関の相互連携による乗継機能の適正な維持と改善、利便性の向上など、公共交通の質的充実を図ります。

② 道路ネットワーク

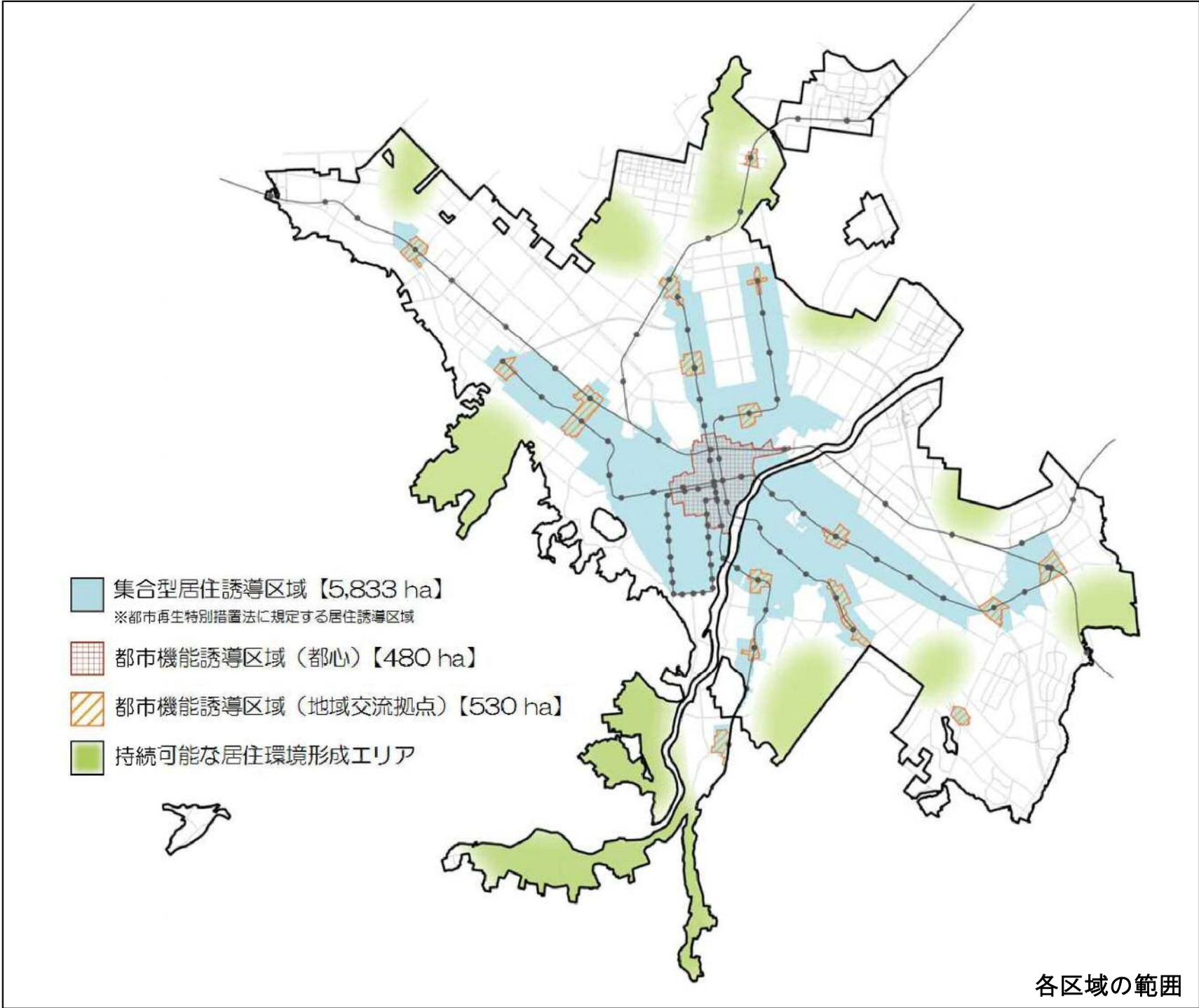
- 都心への不必要な自動車流入の抑制に引き続き取り組んでいきます。
- 周辺都市や市内各地域の拠点へ容易に到達でき、それらの拠点相互が有機的に連結するよう道路ネットワークを構成します。
- 高速道路、連携道路、環状道路、放射道路の機能を強化します。
- 地域相互の連絡を確保する幹線道路や、生活幹線道路としての補助幹線道路の充実を図ります。
- 既存道路の有効活用による自動車交通の円滑化を図ります。
- 駐車場の集約化や既存駐車場の有効活用を図ります。
- 自転車の利用環境の改善を図ります。

③ 広域的な交通ネットワーク

- 国や北海道、周辺市町村などとの連携により、空港、港湾及びそれらへのアクセス並びに鉄道、高速道路、主要幹線道路など広域交通機能の確保・充実を図ります。
- 北海道新幹線の1日も早い札幌開業を目指すとともに、開業を見据えた広域交通ネットワークの強化を図ります。

【地域特性に応じた交通体系の構築】

- 市民、企業、行政等の共通認識に基づき、地域特性に応じた交通体系のあり方を見出していきます。
- 安全で快適な歩行者空間の確保や乗継利便性の向上などを検討します。
- 都心部においては、回遊ネットワークの強化、にぎわいの創出を図ります。
- 高齢化、人口減少が進む地域においては、地域交通のあり方を検討します。



区域	区域設定・施策の方向性	
集合型居住誘導区域	区域設定	複合型高度利用市街地の区域を基本に設定
	施策の方向性	再開発や緩和型土地利用制度の運用などにより、土地の高度利用を図ることで、居住機能の誘導に寄与する取組を支援
持続可能な居住環境形成エリア	区域設定	平成32年（2020年）から平成42年（2030年）の間に人口減少が推計される地域のうち、それまで増加傾向にあった老年人口が横ばいに転じることが推計される地域に設定
	施策の方向性	人口減少が進む中においても、持続的な地域コミュニティの形成や生活利便性・交通便利性の確保により、良好な居住環境を目指すこととし、総合的な取組を推進
都市機能誘導区域	区域設定	多くの人を訪れやすい「都心」「地域交流拠点」に設定
	施策の方向性	高次都市機能を有する施設や公共施設などを誘導施設として設定しているため、交流空間の創出や安心・安全の確保など、各誘導施設の整備効果を相乗的に高める取組を推進していきます。
	誘導区域の設定	都心
地域交流拠点		多くの市民が利用する公共施設（区役所、区民センター、図書館、体育館、区保育・子育て支援センター）

■ 道央都市圏の将来像（計画理念）

どうおう ライブ プ ラ ン

道央 **LIVE** plan

(暮らし=Life) (活力=Vitality) (環境=Environment)

ふるさとの自然と北国の文化を引き継ぎ、安全・安心に暮らせるまちづくりの実現と、人と人、地域と地域が交流・連携し、世界に飛躍する北海道を牽引する新たな都市圏を創造する。

道央都市圏のあるべき将来像（計画理念）

(暮らし) **L**ife

日常生活を支える拠点および周辺市町の中心市街地において、地域特性に応じた多様な都市機能の集積を図り、北国の文化を引き継ぐとともに、お年寄りから子供まで、誰もが、安全、安心に暮らすことができる、利便性の高い都市圏を目指します。

(環 境) **E**nvironment

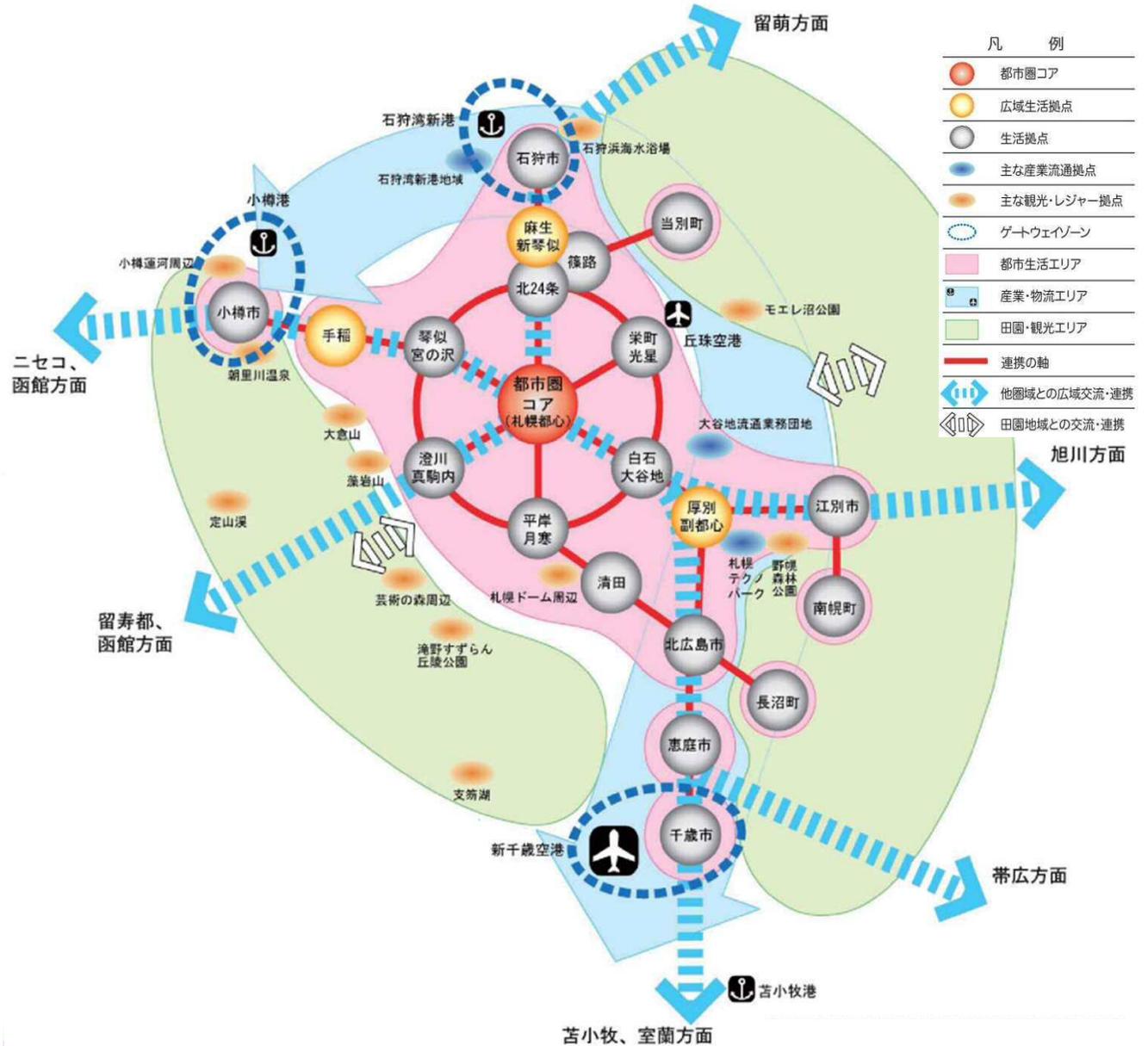
地球温暖化などの環境負荷を低減させ、日本海に面した長い海岸線、広大な石狩平野と背後の丘陵地における豊かな自然環境と共生しつつ、田園居住や芸術・文化交流といった創造的都市活動など多様なライフスタイルを実現できる都市圏を目指します。

(活 力) **V**itality

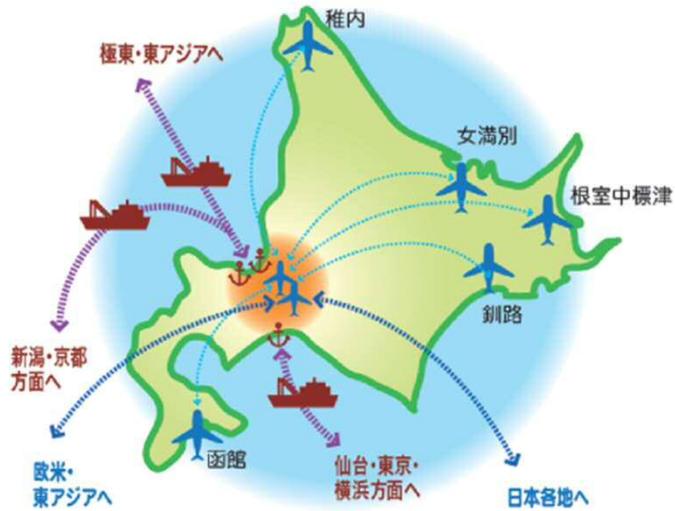
札幌都心には、道内・国内外と交流・連携する多様な機能の高度な集積を図ります。また、周辺地域の都市生活エリアや産業・流通拠点、田園地域との連携強化も図ることで北海道経済を牽引するとともに、持続的成長を支える都市圏を目指します。観光、物流、医療などで大きな魅力や安心を有する拠点と、国内外との交流・連携を支える2空港、3港湾、新幹線駅との連携強化を図ることで、道内、国内、国外の様々な人と人、地域と地域が交流・連携する活力と躍動感あふれる都市圏を目指します。

■ 将来の都市圏交流・連携のあり方

＜圏域内および圏域周辺の交流・連携＞



＜圏域を超えた交流・連携＞



■ 道路および公共交通に関する基本方針

【交通の基本方針① 暮らし Life】

年間を通じて、どんなときも、誰もが安全、安心に暮らせる利便性の高い交通環境を実現します

【交通の基本方針② 活力 Vitality】

都市拠点、産業拠点の育成と国内外に魅力をもつ拠点間の交流・連携を支えるなど北海道経済を支えるモビリティを確保します

【交通の基本方針③ 環境 Environment】

環境に優しく、持続可能な都市を支える交通環境を実現します

■ 現計画の計画理念

『札幌市総合交通計画』の“計画理念”

「暮らし」・「活力」・「環境」を重視する公共交通を軸とした交通体系の実現

～あるべき将来都市像を実現する「バランス」を考慮した都市交通を目指して～

● 3つの視点

暮らし

日常生活を支える各拠点において、それぞれの特性に応じた多様な都市機能の集積を図るとともに、北国の文化を承継しながら、お年寄りから子供まで、誰もが安全・安心に暮らすことができる、公共交通を軸とした利便性の高い交通体系を実現します。

活力

都心部には、道内・国内外と交流・連携する多様で高度な機能の集積を誘導する必要があり、産業・流通、田園地域との連携強化を図りながら、北海道経済を牽引し、その機能を持続・発展させる市民活動・経済活動を支援する交通システムを実現します。

また、観光・物流・医療などで大きな魅力や安心を有する拠点と、国内外との交流・連携を支える2空港、3港湾、新幹線駅との連携強化を図ることにより、様々な人と人、地域と地域をつなぐ交通体系を実現します。

環境

地球温暖化などの環境負荷を低減させ、豊かな自然環境と持続的に共生し、公共交通の利用促進等による適切な自動車利用を誘導し、適切な交通手段が選択できる交通体系を実現します。

● 3つのバランス

公共交通と自動車

「公共交通を軸とした交通体系の確立」と「適切な自動車交通の実現」による
「公共交通と自動車」のバランス。

整備と活用

“つくる”から“活かす”“上手につかう”といった視点の転換に伴う
「整備と活用」のバランス。

行政、市民・企業、交通事業者の役割

「公共交通の維持」や「地球温暖化対策」に対する
「行政、市民・企業、交通事業者の役割」のバランス。

■ 現計画の基本方針

『札幌市総合交通計画』の“計画理念”

「暮らし」・「活力」・「環境」を重視する公共交通を軸とした交通体系の実現
～あるべき将来都市像を実現する「バランス」を考慮した都市交通を目指して～

